大会名称: 第2回東アジアバスケットボール選手権大会
兼 第26回FIBA ASIA男子バスケットボール選手権大会 東アジア地区予選

開催場所: 中国・南京　南京オリンピックスポーツセンター体育館

試合区分: No. 111 男子　　決勝　　コミッショナー: NOMURA Koichi

期　　日: 2011(H23)年6月15日 (水)　　主審: Elias KOROMILAS

開始時間: 19:30　　副審: Weibing SUN、Wing Hung LEE

終了時間: 21:30

韓国	○ 89	25 -1st- 13 15 -2nd- 24 23 -3rd- 17 26 -4th- 19 -OT1- -OT2- -OT3-	● 73	日本

第2回東アジアバスケットボール選手権大会　兼　第26回FIBA ASIA男子バスケットボール選手権大会　東アジア地区予選は、大会最終日。地元中国を撃破し決勝の舞台に進んだ日本は、前回大会覇者である韓国と対戦に、初優勝を目指し気合い十分で臨むが、序盤から韓国に連続得点を許しペースを握られる。しかし第2ピリオド、逆に日本が攻め立て応戦し、37-40の3点差で前半終了。後半、日本は途中出場の#14伊藤、#5金丸などが活躍を見せ、一進一退の攻防とする。だが最終ピリオド、韓国が勝利を決定づける高確率な連続3Pシュートで一気に突き放す。結局73-89、日本は初優勝を逃した。

第1ピリオド、韓国最初の攻撃を日本#15竹内(譲)のブロックショットで防ぐが、その後は高さのある韓国に連続得点を許し、0-8と完全にペースを握られる。日本はたまらずタイムアウトを要求すると、ようやく#10竹内(公)のシュートが決まる。しかし終盤、韓国に要所で3Pシュートを決められ、13-25と大きくリードされ終了。

第2ピリオド、日本は#15竹内(譲)のシュートで先制すると、続けて#4木下、#12広瀬が3Pシュートを沈め、挽回を見せる。しかし韓国は確実にシュートを決め返し、なかなか得点差は埋まらない。その後、日本は24秒ギリギリまで追い込む好ディフェンスを見せるもののリバウンドが奪えず、我慢の時間帯となる。残り5分を切り、日本はタイムアウトを要求すると、#10竹内(公)のジャンプシュートを皮切りに、#6桜井が韓国のチームファウル5つにつけ込む体を張ったドライブイン、#8柏木がフリースローで点差を詰める。最後には#9川村の3Pシュートも決まり、37-40と3点ビハインドで終了。

第3ピリオド、出だし、日本は#14伊藤がバスケットカウント、ディフェンスでは相手からチャージングを取り、一気に流れが傾く。さらに、#7石崎、#8柏木の得点で42-47と5点差とするが、韓国も簡単には引かず、一進一退の攻防が続く。韓国を日本が追い上げる形で試合は進む中、日本は3点差から先が縮まらない。終了間際には、韓国#9と#6が要所で3Pシュートを決め、54-63と9点ビハインドで終了。

第4ピリオド、日本は#5金丸のジャンプシュートで好発進すると、続けて#9網野の3Pシュート、#4木下のジャンプシュートが決まり、62-67の5点差まで詰め寄る。しかし韓国も負けじと2連続3Pシュート、さらには#7のバスケットカウントからの3点プレイでリードを広げ、62-80と一気に点差が開く。終盤、日本#13古川が3Pシュートを決めるなど最後まで粘るが、追い上げには至らず。73-89、日本は準優勝で今大会を終了した。

最終結果は優勝:韓国、準優勝:日本、3位:中国で大会の幕を閉じた。9月に中国・武漢で開催される第26回FIBA ASIA選手権大会には、4位のチャイニーズ・タイペイを含む上位4チームが東アジア地区の代表として出場し、2012年ロンドンオリンピックの出場権を賭けて争われる。

担当者: ((財)日本バスケットボール協会)